

泉大津のホテルでハヤブサが繁殖

2004年5月から6月にかけて、大阪府内で初めてのハヤブサの繁殖を観察したのでその概要を報告します。

5月9日、毎日新聞朝刊第1面の「ハヤブサチェックイン―泉大津―」の記事(下参照)を見た泉大津市在住の会員紀野侑さんからの連絡で初めてハヤブサが泉大津で繁殖していることを知る。自分たちのフィールド大津川のすぐ近くでハヤブサが繁殖していたとは…。

府内ではこれまで正式な繁殖記録はなく、ビルを利用した繁殖についてもヒナの誕生まで至ったものは金沢での成功事例に次いで全国でも2例目と考えられることから、出来る範囲で状況を把握しておきたいと思い観察を行った。また、ハヤブサ研究協議会の佐藤信博氏の指導協力の下、朝日放送の取材が巣立ちまでの間に複数回行われ、夕方のニュース番組(Newshう)の中で5回にわたり特集として放送されたため、ヒナの成長の様子がよく確認できた。

1. 営巣場所と営巣状況

泉大津市なぎさ町5-1 高速道路臨海線の泉大津サービスエリアに隣接したホテルサンルート関空(20階建て、ビルの高さ77.35m)の18階(客室最上階)の南側のベランダ。

ベランダ奥の部分にドバトのフンが堆積(ドバトが繁殖やねぐらの場所として利用していたものと考えられる)しており、その上で産卵・育雛したもの。福井県ではビルのテラスに産卵した卵が転がって繁殖に失敗した事例がある(松村俊幸2002.「ハヤブサの詩」P113~119)が、ここではドバトのフンが産座となり、卵が転がるのがなかったものと考えられる。

2. 発見までの経緯と報道

ホテル側の報道発表(2004.5.10)によると、3月頃より大きな鳥の生息を確認しており、4月に入って産卵を確認(3卵)したとのこと。

5月1日 孵化、ホテルの従業員が写真を撮り、上司に報告、ハヤブサ研究協議会佐藤氏が後日、確認。

5月7日 毎日新聞取材、写真撮影(5月9日付け朝刊に



写真1 ハヤブサのヒナと営巣環境 2004.5.18

記事) ヒナは2羽

5月11日 朝日放送取材

(翌12日ニュースゆうで【独占映像! 都会のハヤブサ】として放送。生後約2週間のヒナの様子、親鳥の給餌、ホテル側の配慮等を紹介)

3. 巣立ちまでの観察(◎印が自らの観察記録、○印はTV取材等の記録を示す。なお、ホテルのベランダが営巣場所となっていることから、鳥への配慮はもちろん、ホテル側に迷惑をかけないように出来る限り短時間で、客室から直接観察者が見えないよう距離をおいて観察した。)

◎5月15日 午後 泉大津サービスエリアより観察

ホテル18階のベランダのてすりに♀がとまる。近くを飛んだドバトを♀が追いハンティングに成功、1階下の17階ベランダに持ち帰り解体。♂もムクドリ大の獲物を片足につかんで帰巢。

(朝日放送がホテルの周辺をヘリコプターで撮影)

◎5月18日

午前10時30分頃から、朝日放送の取材に同行(佐藤氏の紹介により、支部から橋本保護部長、納家の2名が現場の確認を行う)

ハヤブサのヒナ2羽はベランダの奥に堆積したドバトのフンの上にいる(写真1)。2羽のヒナは撮影用のブラインドを設置する人の動きに驚き「ケーケー」と、さかんに警戒の声を上げるが(しばらくして警戒を解く)、メス親はベランダの手すりにとまったまま、平然として動かず(写真2)。

この後、近くの客室に設置したモニターの画面でヒナの様子を観察。ヒナは朝からしっかり餌をもらったらしく、そのうが丸く膨らんでいる。足取りはおぼつかないが、親に呼ばれると自力でゆっくり歩くことができる。

ヒナはスズメ大の鳥を自分で食べようとするが、食べられずに、親からちぎってもらう。(翌19日【ハヤブサの子育てに肉薄】として放送)

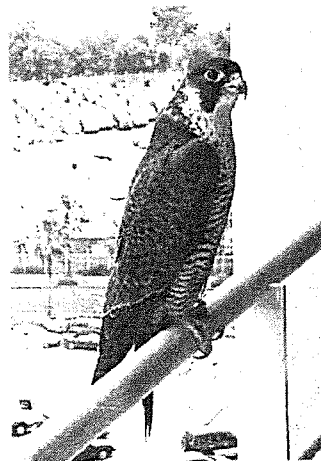


写真2 ベランダのてすりに止まるハヤブサ♀ 2004.5.18

◎5月23日午前 臨海線青葉町交差点付近より観察

大きくなってペランダをひよこひよこ歩く2羽のヒナ観察。翼が黒く伸びてきているのが分かる。

○5月27日 朝日放送取材（翌28日【都会のハヤブサ2】として放送。2羽のヒナが順調に育っている様子を紹介）

◎5月30日午後 臨海線青葉町交差点付近より観察

暑さのためか、てすりに止まる♀は、時々口を開いた状態になる。ペランダに姿を見せたヒナは、白い綿毛がほとんどとれ、背は全体に黒褐色に見える。翼を上下に動かしたり、しっかりした足どりで歩いている。ヒナは2羽とも元気そう、大きさは一回りほどの差がある。ハヤブサひげもうっすらと見える。巣立ちも間近に思われる。

○6月4日 朝日放送取材

午後3時30分過ぎヒナ1羽（小さい方）が巣立ち。巣立ち後の姿を取材カメラマンが追えず、消息不明。（同日、巣立ちの様子放送）

◎6月5日

早朝からホテル周辺で巣立ち後のヒナの行方を捜索（紀野、保護部清水の両氏同行）。午後になってホテル北側（反対側）の16階ペランダに無事でいるところを確認。残り1羽の巣立ちも間近と思われる。

○6月7日 朝日放送取材

もう1羽のヒナ（大きい方）が巣立ち。巣立ちの場面は観察されていないが、ホテルの7階部分の屋上にいるところが確認される。

○6月9日 朝日放送取材

7日に巣立ちしたヒナが、この日の午前、近くの高速度路上で自動車にはねられ事故死。死体は大阪自然史博物館に届けられる。

◎6月13日 午前 泉大津サービスエリアより観察

ホテル向かいの「きららセンタービル」屋上にいる若鳥を確認（写真3）。

○6月17日 【ハヤブサ通信最終章】として、これまでの子育ての様子や事故で死んだヒナのことなどを紹介。無事に巣立った若鳥が、親鳥とともに大空を自由に飛びまわっている映像が印象的であった。

4. 保護への課題等

今回、ヒナの1羽が事故死したものの、ハヤブサの繁殖が成功し、無事1羽の若鳥が巣立ったことは大変素晴らしい出来事であった。ハヤブサの巣に近い客室の宿泊を見送るなどのホテル側のハヤブサへのあたたかい配慮の賜物であると思う。

また複数回行われたテレビの取材については、繁殖への影響は皆無とは言えないと思うが、専門家の指導の下での取材であり、巣立ちの強制などの悪影響はなかったことを付記しておきたい。今回の取材により、大阪で

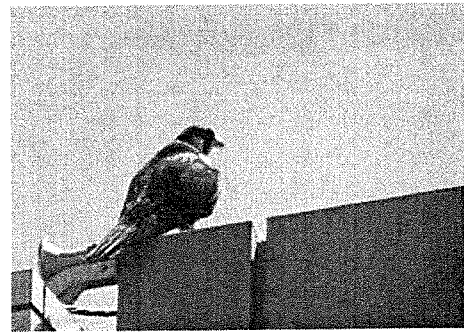


写真3 ビル屋上に止まる若鳥 2004.6.13

の初めてのハヤブサの繁殖が映像に記録され、多くの方に感動を与えたことの意義は大きいと思う。

来年以降も、引き続きこのホテルでの繁殖が見られるかどうかは、ホテル側の協力なしには考えられない。

都会に住むハヤブサとの共存をどのように図っていくのか、客室から離れた場所への誘致用の巣箱の設置など具体的共存策を提案していく必要があると考える。

素晴らしい空の狩人「ハヤブサ」がいつまでも泉大津の空に舞いつづけられるよう、これからも見守っていきたい。

（保護部 納家 仁 2004年7月25日 記）



2004
ハヤブサ
チェックイン

大阪府泉大津市のホテルで、毎年訪れるハヤブサの繁殖が今年も成功した。3月17日、保護部が撮影したハヤブサの雛鳥が、ペランダで巣立った。保護部は、ハヤブサの繁殖を支援するために、ペランダに指定されている。ハヤブサのつがいが、巣に近づくと、必ずといっていいほど、警戒心を示す。保護部は、ハヤブサの繁殖を支援するために、ペランダに指定されている。ハヤブサのつがいが、巣に近づくと、必ずといっていいほど、警戒心を示す。保護部は、ハヤブサの繁殖を支援するために、ペランダに指定されている。

泉大津

保護部は、ハヤブサの繁殖を支援するために、ペランダに指定されている。ハヤブサのつがいが、巣に近づくと、必ずといっていいほど、警戒心を示す。保護部は、ハヤブサの繁殖を支援するために、ペランダに指定されている。

ハヤブサ卵中の微量元素

田辺信介、池本徳孝、酒井大樹

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生態毒性解析分野

研究方法

2005年に大阪で採取したハヤブサの卵4検体を採取し分析に供した。試料は成分が均一になるようにホモジナイズした。元素の分析は既報に従い (Nam et al. 2005)、マイクロ波加熱分解を行い、V、Cr、Mn、Co、Cu、Zn、Rb、Sr、Mo、Ag、Cd、In、Sn、Sb、Cs、Ba、Tl、Pb および Bi は誘導結合プラズマ質量分析計 (ICP-MS) で、Se は水素化物発生-原子吸光光度計 (HG-AAS) で、Hg は還元気化-原子吸光光度計 (CV-AAS) で測定した。

研究結果

分析したハヤブサの卵中微量元素濃度を表1に示す。測定した微量元素21種の中では必須元素のZnが最も高濃度であり、次いでRb、Se、Cu濃度が高値を示した。毒性元素の中ではHgが最も高濃度であったが (0.76 - 1.2 µg/g dry weight)、他の鳥類の値と同程度であり (Tompson 1990; Ikemoto et al. 2005; Agusa et al. 2005)、いくつかの鳥類で報告されている生殖能力や行動異常の閾値 (1.5 - 18 µg/g dry weight) (Burger and Gochfeld 1997) 未満であった。また、近年電子産業に利用されているIn、Sb、Bi等の元素は総じて低く、そのリスクは相対的に低いと考えられた。

参考文献

- Agusa T et al. (2005) Body distribution of trace elements in black-tailed gulls from Rishiri Island, Japan: age-dependent accumulation and transfer to feathers and eggs. *Environ. Toxicol. Chem.*, 24, 2107-2120.
- Burger J and Gochfeld M (1997) Risk, mercury levels, and birds: relating adverse laboratory effects to field biomonitoring. *Environ. Res.*, 75, 160-172.
- Ikemoto T et al. (2005) Non-destructive monitoring of trace element levels in short tailed albatrosses (*Phoebastria albatrus*) and black-footed albatrosses (*Phoebastria nigripes*) from Torishima Island, Japan using eggs and blood. *Mar. Pollut. Bull.*, 51, 889-895.
- Nam DH et al. (2005) Specific accumulation of 20 trace elements in great cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. *Environ. Pollut.*, 134, 503-514.
- Tompson DR (1990) Metal levels in marine vertebrates. In: Furness RW, Rainbow PS (Eds.), *Heavy Metals in the Marine Environment*. CRC Press, Boca Raton, pp. 143-182.

表1 ハヤブサ卵中の微量元素濃度(µg/g 乾重当り)

Sample ID	V	Cr	Mn	Co	Cu	Zn	Se
05756A	0.10	2.0	1.40	0.040	3.86	51.4	4.3
06143B	0.074	7.4	1.58	0.11	3.84	52.1	3.5
05758C	0.027	0.61	1.12	0.023	3.57	47.7	4.1
05759D	0.025	0.99	1.30	0.029	4.21	51.0	4.6
	Cd	In	Sn	Sb	Cs	Ba	Hg
05756A	0.006	0.002	0.010	0.04	< 0.01	0.32	0.76
06143B	0.006	0.004	0.027	0.02	0.01	0.42	0.98
05758C	0.002	0.002	0.075	0.01	< 0.01	0.28	0.90
05759D	0.002	0.002	0.119	0.01	< 0.01	0.27	1.2

■ 2006年8月、日本野鳥の会各支部あてにそれぞれ地域でのハヤブサの生息状況、特に都市部への進出状況についてアンケート調査を依頼した。その結果、17支部から回答をいただいたが、その中で人工建造物への繁殖については北九州市の事例のみであ

った。そこで各種文献を調査するとともに、ハヤブサの研究をされている方などに別途情報提供いただいた。なお新聞等の報道記録は、断片的な情報が多く、繁殖の成否等が不明なものについては、別途確認等を行った。結果を下表に、また代表的な事例を以下に紹介する。

■人工建造物での繁殖事例（繁殖年の古い地域順）

都市名	建物種類 巣場所の高さ	()は海岸 までの距離 沿岸部： 1km未満	繁殖年	繁殖成否
小野田市 (山口県)	工場煙突	沿岸部	1992~	?
	巣箱設置 高さ50m		2001~	○巣立ち
福山市 (広島県)	工場煙突	沿岸部	1993	○巣立ち
金沢市 (石川県)	ビルA	(約7km)	1998	産卵後×
			1999	産卵後×
	ビルB テラス	(約5km)	2000	産卵後×
			2001	○巣立ち
			2002	○巣立ち
石川県庁	(約2Km)	2003	○巣立ち	
北九州市 (福岡県)	集合煙突の鉄 枠 高さ約30m	沿岸部	2005	産卵後×
			2000	○巣立ち
			2001	○巣立ち
			2002	△巣立ち前 に落下死
	工場建物 高さ20m		2004	○巣立ち
		2005	○巣立ち	
福井県	ダム堤体	(約50 Km)	2001~	一部失敗
新潟市 (新潟県)	新潟県庁 高さ約70m	(約2Km)	2002~	産卵に至ら ず×
広島県内	ダムの緊急排 水溝	(約25 Km)	2003	○巣立ち
岡山市 (岡山県)	高層ビル	(約6Km)	2004	○巣立ち
泉大津市 (大阪府)	ホテルのペラ ンダ 高さ約65m	沿岸部	2004	○巣立ち
			2005	産卵後×
			2006	○巣立ち
石巻市 (宮城県)	公共施設の庇 高さ約9m	(約10Km)	2005	○巣立ち

■小野田市の事例

発電所の高さ200mの煙突のカラスの巣跡を利用して1992年以降繁殖するも成功せず、2000年秋に人工巣箱を設置、2001年以降毎年繁殖を継続中。

■金沢市、ビル街での事例

1998年以降、金沢市のビル街で繁殖行動が見られ、テラスへの砂入れなどの環境整備によって2001年以降、繁殖継続中。ビル街での繁殖成功例としては、全国で初の記録である。

■北九州市での事例

工場の集合煙突(高さ170m)の地上30mの鉄枠で巣作りを行っている他、約5Km離れた工場の建物でも繁殖。人工建造物ではないが、採石場跡地に人工巣穴を掘り、ハヤブサの繁殖誘致実験の取り組みが進められ2000年から継続利用されている。

◆まとめ

日本では、十数年前からハヤブサの人工建造物を利用しての繁殖が確認されるようになった。人が巣台や巣箱の設置を行うなど産卵に適した条件を提供することで、同じつがいが継続して繁殖を行っている事例がある他、新たにビル等で営巣を試みる事例も増えつつある。

またアンケートに回答いただいた複数の支部からは、繁殖はしていないものの、都市部でよく観察できるという情報(ここ数年、東京都心部でも繁殖期に複数個体が観察されている。)をいただいた。ビルで巣立ったハヤブサが今後増加し、親と同じようにビルで繁殖するようになることが考えられる。また積極的に人が産卵に適した条件を提供することで、ハヤブサの都市部への進出事例が増加していくものと考えられる。今後ともハヤブサの動向に注目していきたい。

調査に回答いただいた支部・個人(敬称略)

滝川支部、室蘭支部、北上支部、宮城県支部、茨城支部、千葉支部、東京支部、神奈川支部、長野支部、甲府支部、愛知県支部、和歌山支部、滋賀支部、京都支部、香川支部、愛媛支部、北九州支部

個人：松村俊幸(石川、福井等)、山田一太(広島)

調査へのご協力ありがとうございました。

大阪府における猛禽類の現状と保護の課題

こがいと きんじろう
小海途 銀次郎

(大阪府鳥獣保護員・大阪希少鳥類研究グループ)

I はじめに

近年、全国各地の大型開発予定地内で「国内希少野性動植物種」に指定されているオオタカ、クマタカなどの生息地が見つかり問題化しているが、大阪府においても同様の問題が生じている。

大阪府では、こういった問題への対応策として「オオタカ問題検討委員会」を設置し、私も府の鳥獣保護員として、また長年ワシタカ類の観察を行ってきた専門家としての立場で「アドバイザー」として関わってきた。

また 2000～2001 年に日本野鳥の会大阪支部と私たちの研究グループが協力して「オオタカ、クマタカの生息調査」(大阪府からの受託事業)を行い、府内におけるオオタカの生息状況のほぼ全体像がつかめる状況となった。

II 大阪府で生息(繁殖)する猛禽類(タカ目)

A 大阪府で繁殖記録のある猛禽類

現在までに繁殖記録のある猛禽類は ①ミサゴ ②ハチクマ ③トビ ④オオタカ ⑤ツミ ⑥ノスリ ⑦サシバ ⑧クマタカ ⑨チュウヒ ⑩ハヤブサ ⑪チョウゲンボウがある。

(繁殖確認年 ミサゴ:1959,1963,1966. ノスリ:1999. チュウヒ:2006. チョウゲンボウ:2006)

上記、猛禽類には環境的におおまかな棲み分けがなされており、

a 山岳地:クマタカ、ツミ

b 丘陵地:オオタカ、ハチクマ、ノスリ、サシバ、トビ、ミサゴ

c 平地:ハヤブサ、チョウゲンボウ、チュウヒとなる。

この中で開発による環境変化の影響を最も多く受けているのが丘陵地に棲む猛禽類である。

B 特に保護が必要とされる3種。

大阪府で繁殖する猛禽類のなかで「種の保存法」で「国内希少種」に指定されているのはクマタカ(*Spizaetus nipalensis*) とオオタカ(*Accipiter gentiles*)、ハヤブサ(*Falco peregrinus*) の3種である。もちろん他の猛禽類に問題がないという訳ではない。

むしろ上記3種よりもハチクマ、サシバの方が大阪府

では環境変化の影響を受けているように感じる。

その理由のひとつはハチクマ、サシバが夏期のみ生息する渡り鳥の為ではないかと考えられる。

しかし、ここでは「国内希少種」に指定されているクマタカ、オオタカ、ハヤブサの、なかでも主に丘陵地に生息して、開発の影響を最も受けているオオタカについて、また一部問題の生じているクマタカについても紹介したい。

【オオタカの状況】

大阪府でオオタカの繁殖がはじめて確認されたのは1979(昭和54)年である。

最初にオオタカと開発の問題が生じたのは1999(平成11)年であった。

a 生息状況調査

2000～2001年の調査で48つがいの生息を確認した。

b 繁殖行動

大阪府での繁殖行動は1月下旬にはじまり、3月中旬には巣作りをはじめ、産卵は4月中旬～下旬に行なわれ、5月下旬に孵化し、巣立ちは6月下旬～7月初旬、そして7月下旬頃まで営巣林に留まり、その後次第に行動圏が広がって行くのが観察された。

c テリトリー(巣間距離)

営巣地が近い範囲に集中している地域においては平均2.2kmであり、おおまかに半径1kmぐらいがテリトリーと考えられる。

しかし行動圏は広く2.5km以上離れた場所まで飛行していくのが観察された。また巣間の最短距離は1.1kmであったが尾根を挟んで対峙していた。

d 営巣木

営巣に利用した木は①アカマツ、②スギ(ヒノキ)、③カシ(シイ)、④クス、⑤ヤマモモ、⑥ソヨゴ、⑦コナラ、⑧ミズキ、であった。

営巣に適した大径木の混生する地域では、まず針葉樹のマツ、次いでスギ(ヒノキ)、更に常緑広葉樹のカシ(シイ)が選ばれるように感じた。

また地域別では北部ではマツが圧倒的に多く、南部ではスギ、マツを中心に様々な木が利用されている。

e 営巣地

オオタカの営巣地はなだらかな地形をみせる丘陵地で標高100～300mの間が多い。

f 繁殖阻害要因

①風雨による落巢、②密猟、③他種による乗っ取りなどがある。

【クマタカの状況】

a、生息状況

クマタカは1957（昭和32）年に偶然、1 雛のいる巣が発見された。

2001（平成13）年には6 番の生息が推定された。

生息確認以来1 巣あたりの雛（卵）数は全て1 雛（卵）である。

近年、繁殖は隔年に行われたり、時期がズレたりムラが見られる。

b、繁殖

繁殖は1 月頃からディスプレイ飛行、鳴き交わし等の行動が見られ、2 月には巣作り、3 月中旬に産卵し、約47 日間の抱卵を経て4 月下旬から5 月初旬にかけて雛が孵化し、7 月中旬に巣立ちする。その後、翌年の繁殖が始まる1 月頃まで営巣地に留まる。

c、テリトリー（巣間距離）

近い距離にある巣間の平均距離は約3.7km であり、最短は約1.8km であった。

d、営巣樹

大阪府でクマタカが営巣に利用した樹種はアカマツ、スギ（ヒノキ）、モミ（1 例）の3 種類である。

生息が確認された初期の頃は殆どアカマツが利用され、1990 年を境として近年はスギ（ヒノキ）の利用が殆どである。

e、営巣環境

主尾根から山麓に向かって下る急峻で深い谷が選ばれ、その谷の中腹に広がる松林や杉林が営巣林となる。営巣樹の垂直位置はほとんどが標高400～600mの間である。



▲ クマタカの親子 1975 年、岩湧山系

III 保護の課題

オオタカと開発の問題について最初に提起されたのは1992（平成4）年であった。

1999（平成11）年は大阪府の開発部署が一斉に対応を始めた年で、以降本年まで4ヶ所の大型開発地で委員会を設置し、10ヶ所前後の中小開発地ではアドバイザーを交え工事中の問題の解決に当たっている。

問題の解決のためには「工事の影響の軽減」と「営巣地の保全」をいかに行うかである。「工事の影響の軽減」については、最も重要なのは繁殖期に工事は行わないという事である。「営巣地の保全」については、a 営巣林を中心に一定区域を保全する。b 開発予定ルートを変更する。c 営巣林を間伐等の予定から外す。といったことである。大阪府の開発現場のほとんどが、2月～7月の繁殖期間は基本的に工事は休止されている。また「営巣地の保全」についてはオオタカの問題地で実施または検討され、現在オオタカの為の保全地が2ヶ所設定されている。c「営巣林を間伐から外す」についてもクマタカで実施された。

更に一ヶ所の保全地については「オオタカの生息の為の森林作り」が検討され、営巣に利用するアカマツを保護する為、大径木のアカマツに松枯れ防止液を注入したり、風倒木の整理等を実施している。

今後の問題としては ①工事完了後の開放された生息地をどのように維持管理するのか、②生息地の殆どが民有地のため、いかにして地権者の協力を得るのか、といったことがあげられる。

IV おわりに

オオタカ、クマタカ、ハヤブサをはじめ猛禽類は生態系の頂点に位置する鳥である。

猛禽類の生息地を保護することは彼らを支えている全ての動植物をも守ることにつながるわけでその意味は大きい。より快適な生活を求めて自然の開発を続ける人間と豊かな自然なくして生活が出来ない猛禽類。

反面、豊かな自然に囲まれて生活したい人間と人間の生活に直接、間接に依存しながら生活する里山の猛禽類、その接点「人と猛禽類の共存」を追求して行くことが大阪府における猛禽類の未来への課題ではないだろうか。

2006年2月11日 毎日新聞

2006年4月19日 毎日新聞

ハヤブサさん、よくぞ3年連続で産卵営巣してくれた。泉大津市のホテルサンルート関空に今年もハヤブサが産卵した。愛鳥家や市民らでつくる「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」は、12日午後1時半から3時まで「ハヤブサ観察会」を開催、観察用リモートカメラでとらえたハヤブサ映像を見ながら、応援する。【藤井英二】

●今春も

ハヤブサー番

産卵したのは現在のところ1個。9日の朝、ホテルが例年営業している高層階客室のベランダで雌ハヤブサが抱卵しているのを確認した。今後、複数の卵を産卵すると見られている。先月下旬、「泉大津旧テルにチェックインを」



ホテルサンルート関空の高層階ベランダに3年連続で営巣、抱卵するハヤブサ

「巣立ち応援」あす観察会 サポート倶楽部

今年に入って、ホテルを飛行するハヤブサのつがいを、サポート倶楽部員がよく見かけており、「何とか今春も、ホテルにチェックインを」

サポーター倶楽部の世話をしていて、鳴瀬裕司・ホテル営業部長は「『春一番』ならぬ『ハヤブサー番』です。うれしいです」

港再開発事業推進連絡協議会」から贈られた寄託金で、サポート倶楽部が観察用リモートカメラを巣のそばにセット。パソコン画面に画像が取り込めるようにして、観察を続けてきた。

3年連続で営巣 産卵

泉大津・ホテルサンルート関空

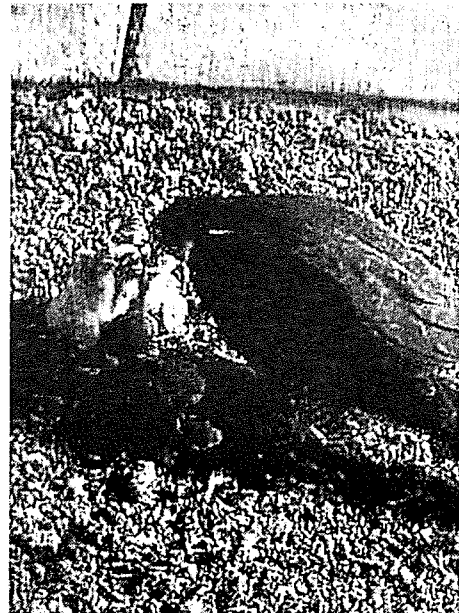
こんにちは、赤ちゃん元気に育ってねー。泉大津市のホテルサンルート関空の客室ベランダで16日から18日にかけて、ハヤブサのひな4羽が無事かえった。親からエサをもらい、「キーツ、キーツ」と元気な声をあげている。

ゆりかごはペランダ

ハヤブサ4羽が産声

泉大津のホテルサンルート関空

3月上旬に4個産卵。サポート倶楽部員らが、「泉大津旧港再開発事業推進連絡協議会」から贈られた観察用リモートカメラで観察を続けた。16日に3羽、18日に1羽がかえった。お母さんハヤブサがエサを与えたり、ひなを体の下に入れたり。お父さんハヤブサ



お母さんハヤブサからえさをもらうひな
＝泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部提供

ロアで「ハヤブサ観察会」を開き、赤ちゃんにエサを送る。誰でも参加でき、無料。29日に観察会が営巣。04年春は2羽がかえったが、昨春はふ化できなかった。同ホテルベランダにかえったが、昨春はふ化できなかった。【藤井英二】

2006年4月18日 産経新聞

2年ぶりハヤブサのひな

3羽誕生 来月下旬にも巣立ち

ハヤブサは同ホテルの高層階の客室のベランダに営巣。十六日午前六時ごろ、倶楽部のメンバーが、巣の様子を観察するために設置したリモートカメラで確認したところ、抱卵していたメスの腹の下にひな三羽がいるのを発見した。

同ホテルにハヤブサが営巣するようになったのは平成十六年三月下旬で、以来毎年、営巣している。初年はひな二羽が誕生し、一羽は無事に巣立ちしたが、翌年は営巣して産卵したものの、ふ化しなかった。

今年、つがいがか二月下旬に交尾し、三月上旬から中旬にかけて四つの卵を産卵していた。

倶楽部によると、ふ化して約二週間はオスが持ち帰ったエサを、メスが受け取り、ひなに与えて子育てし、順調にいけば、五月下旬にはひなが巣立ちできるようになる

泉大津のホテルベランダ

泉大津市にある「ホテルサント関空」のベランダに営巣しているハヤブサの卵がふ化し、ひな三羽が誕生しているのを、市民やホテルの従業員で作る「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」が十六日早朝、確認した。二年ぶりのひなの誕生に、関係者らは喜びにわいている。

インターネットで子育て公開

サポート倶楽部



ひなにえさを与えるハヤブサ（泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部提供）

市民に見守ってほしい」と話している。子育ての「もう一個の卵もふ化様子には、倶楽部のインターネットで公開している。四羽のひなが無事に巣立ちすることを願っている。問い合わせは同倶楽部事務局（☎0725・20・1111）へ。

2006年6月6日 朝日新聞

ホテルのおうち ハヤブサ巣立ち

泉大津市のホテルサンルート関空の高層階ベランダで今春生まれたハヤブサのひな4羽が巣立った。保護のために観察を続けてきた泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部が5月下旬から今月1日までの間に次々巣立つのを確認した。このベランダで子育てが成功したのは04年に次いで2度目で、倶楽部は「これで都会育ちのハヤブサが定着していく」と喜んでいる。

(東裕)

泉大津で11日観察会

同倶楽部によると、巣に設置した監視カメラによる

観察などで、5月25日に一番体の小さかったひなが巣立ったのを確認。6月1日までにはすべてが飛び立った。巣立ち直後は飛ぶ力が弱かったため、近くの工場に落ちたり、ガラスに追われたりして危険な目に遭ったが、いずれも保護されて窮地を脱した。



ホテルのベランダから巣立ったハヤブサの幼鳥。泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部提供

4羽無事■ビル育ち定着しそう

04年には2羽が巣立ったものの、うち1羽は直後に交通事故死で犠牲になっており、倶楽部のメンバーは「気の抜けない時期が続いたが、やっと力がついてきた」と胸をなで下ろす。「ハヤブサは海岸近くの絶壁で営巣するが、ホテルのベランダで育ったハヤブサたちは同じようにビルで子育てをするはず。今後は都会育ちのハヤブサが増えてくるのでは」と期待している。

同倶楽部では11日午後1時半から、ホテルの向かいの「きりりセンタービル」11階展望室で、ハヤブサの観察会を開く。幼鳥は巣立ち後1カ月ほど、親から餌をもらいながら独り立ちに備えるため、しばらくは親子の観察ができるという。会場には子育ての経過を紹介する写真も展示される。無料。小学2年生以下は保護者同伴。問い合わせはホテルサンルート関空(07-25・20・1111)内、同倶楽部代表運営委員の嶋瀬裕司さんへ。

テレビ報道

- 2006年4月29日 ABCテレビ⑥ 夕方のニュースで報道
- 2006年6月6日 よみうりテレビ⑩ ニューススクランブルで報道

あ と が き

2006年の「ホテルサンルート関空」での2度目のハヤブサの子育てを観察し、ヒナたちの巣立ちを見送ってから、5か月が過ぎようとしています。

2004年の初めての繁殖、2005年の繁殖失敗、そして今年は皆の期待に添えて、ハヤブサ夫婦は立派に4羽のヒナを育てあげました。

ホテルのハヤブサ保護に関するご理解とご協力を得て、また多くのハヤブサを大切に思う市民の皆さんのご支援を得て、巣のあるベランダに監視・観察用のリモートカメラを設置することができ、ハヤブサの子育ての様子をリアルタイムで観察することができました。このことによって今まで知らなかったさまざまな生態が明らかになってきました。

今回、私ども日本野鳥の会大阪支部と泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部が共催で、都市に暮らすハヤブサとの共生をテーマに、「ハヤブサ保護シンポジウム」の開催（2006年11月4日）を企画しました。そこで、シンポジウム開催にあわせて、今年ハヤブサの繁殖についての報告書をまとめようということになりました。

報告書作成にあたり、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生態毒性解析分野の田辺信介、池本徳孝、酒井大樹各氏には、2005年に繁殖放棄された卵についての微量元素に関する分析結果をご報告いただきました。また小海途銀次郎氏には、大阪府内でのオオタカやクマタカについての保護の現状や課題などについてのレポートをいただきました。また大阪市立自然史博物館の和田岳氏には、報告書作成にあたって貴重なアドバイスをいただきました。無理をお願いし、執筆やお助言いただいた皆様に感謝申し上げます。

また泉大津の地を子育ての場所として選び、しっかりヒナたちを育てあげ、私たちに感動を与えてくれたハヤブサ夫婦に感謝したいと思います。

来年も、またその次の年も、いつまでも泉大津の空をハヤブサが舞い続けることができるよう、彼らの暮らしを見守っていきたいと考えています。

2006年11月1日

泉大津ハヤブサ・レポート 2006

編集担当 榮本 和幸
阪上 幸男
納家 仁

泉大津 ハヤブサ・レポート 2006

2006年11月1日 発行

編 集 日本野鳥の会大阪支部保護部
(担当 納家 仁)
同研究部
(担当 榮本 和幸)
泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部
(担当 阪上 幸男)

執筆者 池本 徳孝、小海途 銀次郎、
酒井 大樹、田辺 信介

協 力 和田 岳

発 行 日本野鳥の会 大阪支部
〒543-0011
大阪市天王寺区清水谷 6-16NEXT21 1F
TEL06-6766-0055 (火・金・日 AM10~PM6)
FAX06-6766-0056
URL : <http://www10.plala.or.jp/birdsosaka/>

印 刷 オリビア印刷株式会社

本報告書の発行には大阪府環境保全活動補助金を活用しました

